

田子の浦港港湾計画資料

- 軽易な変更 -

平成 19 年 2 月

田子の浦港港湾管理者
静 岡 県

目 次

1	変更理由	1
2	施設計画に関する資料	2
2 - 1	外郭施設計画	2
3	その他の資料	4
3 - 1	港湾区域の範囲	4
3 - 2	環境の保全に関する検討	5
3 - 3	静岡県地方港湾審議会委員名簿	6

1 変更理由

効率的な港内維持浚渫を図るため、中央地区において外郭施設計画を変更する。

2 施設計画に関する資料

2 - 1 外郭施設計画

(1) 防砂堤計画

防砂堤の現況

中央地区における防砂堤の現況は次のとおりである。

地区名	名称	延長	状況
中央地区	潤井川防砂堤	32 m	既設
	潤井川第2防砂堤	91 m	既設

防砂堤計画の必要性

中央地区において防砂堤の位置を変更し、沈砂池を拡大することにより、効率的な港内維持浚渫を図る。

新規に計画する防砂堤の規模及び配置

新規に計画する防砂堤の規模及び配置の考え方は次のとおりである。

地区名	名称	計画種類	延長	防砂堤の規模及び配置の考え方
中央地区	潤井川第1防砂堤	新規	36 m	効率的な維持浚渫を行うための規模及び配置とする。
	潤井川防砂堤	撤去	32 m	新規計画に伴い撤去する。



図 2 - 1 - 1 新規に計画する防砂堤の位置図

3 その他の資料

3 - 1 港湾区域の範囲

現在指定されている田子の浦港の港湾区域は、昭和 44 年 3 月 28 日港管第 800 号により認可を受けたものであり、範囲は以下に示すとおりである。

表 3 - 1 - 1 港湾区域の範囲

範 囲	面 積
中丸三角点 (4.9 メートル) から 67 度 2,830 メートルの点 (E = 138 ° 41 44 N = 35 ° 08 32) を中心として 1,335 メートルの半径を有する円内の海面並びに沼川河合橋、和田川吉原橋、潤井川田子の浦橋及び江川江川水門各下流の河川水面並びに富士市依田橋字三ツ又、字市川、富士市鈴川字堤外白倉及び富士市前田字舞台地先水面	140ha

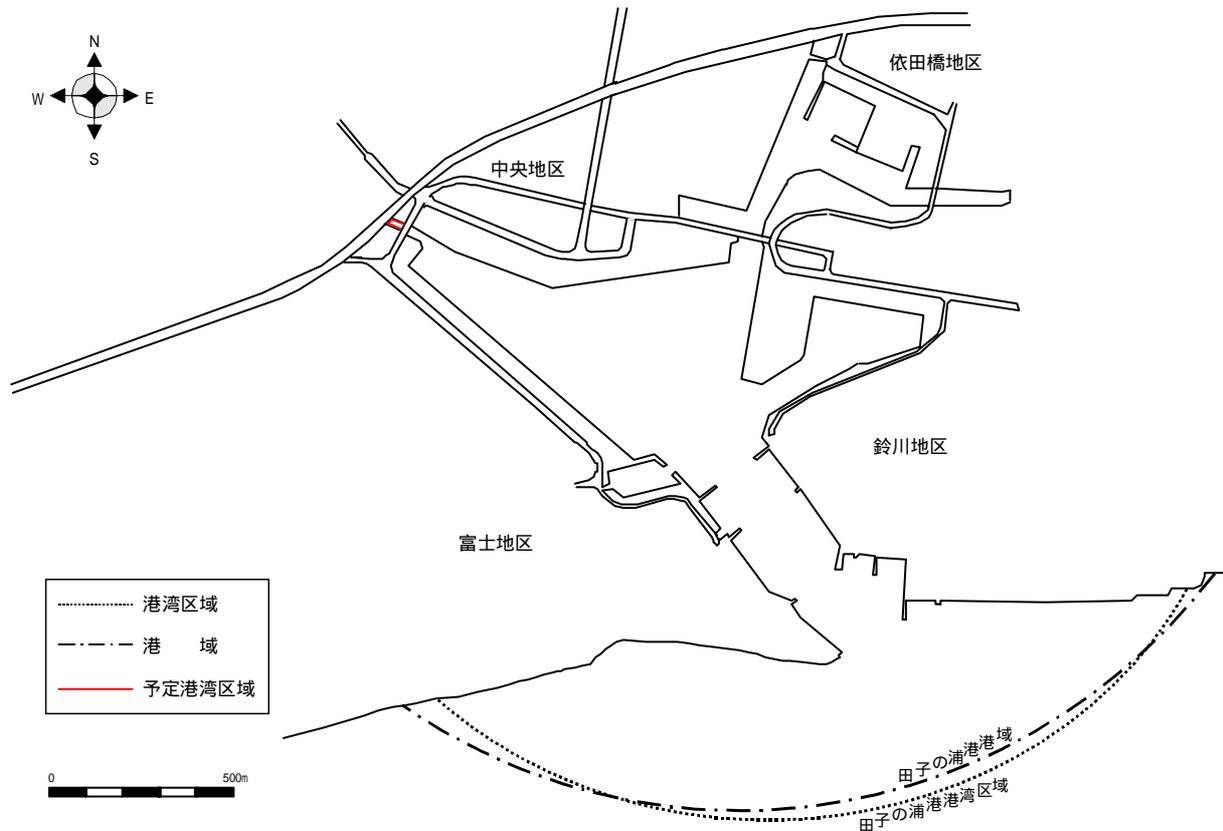


図 3 - 1 - 1 港湾区域の範囲

3 - 2 環境の保全に関する検討

今回計画地周辺では、特に保護を必要とする生物が確認されていないこと、更に今回計画は既設構造物の位置の変更であるため、水質への影響は軽微なものと予測されることから、周辺の環境に及ぼす影響については軽微なものと考えられる。

3 - 3 地方港湾審議会委員名簿

平成 19 年 2 月 16 日現在(敬称略、順不同)

選任区分	区分	氏 名	役 職 名
学識経験者	会長	松 田 義 弘	東海大学海洋学部教授
	委員	明 瀬 純 子	消費生活アドバイザー
	委員	井 野 盛 夫	富士常葉大学環境防災学部教授
	委員	黒 田 秀 彦	(財)国際臨海開発研究センター理事長
	委員	高 木 敦 子	(有)アムズ環境デザイン研究所代表取締役
	委員	中 嶋 壽 志	(財)静岡経済研究所理事
	委員	東 恵 子	東海大学短期大学部教授
	委員	山 口 祐 子	浜松NPOネットワークセンター代表理事
港湾関係者	委員	杉 山 陽 一	清水港木材産業協同組合理事長
	委員	鈴 木 與 平	清水港船舶代理店会会長
	委員	田野崎 圭 一	関東船主会副会長
	委員	西 川 徳 市	静岡県漁業協同組合連合会会長
	委員	長谷川 潔	清水水先区水先人会会長
	委員	増 田 常 男	全日本海員組合静岡支部長
	委員	山 本 貴美枝	御前崎エコクラブ
国の地方行政 機関の職員	委員	岡 崎 匠	財務省名古屋税関長
	委員	金 井 道 夫	国土交通省中部地方整備局長
	委員	谷 山 将	国土交通省中部運輸局長
	委員	武留井 武 男	第三管区海上保安本部清水海上保安部長
県議会議員	委員	杉 山 盛 雄	静岡県議会環境森林農水委員長
	委員	田 島 秀 雄	静岡県議会建設委員長
地元市町村を 代表する者	委員	小 嶋 善 吉	静岡市長
	委員	鈴 木 尚	富士市長
	委員	石 原 茂 雄	御前崎市長